

動き出した貯蓄から投資と 2040 年に向けた金融資本市場のビジョンについて

日本証券業協会 松尾 元信

証券業界は「貯蓄から投資へ」という目標を長きにわたり掲げてきた。新 NISA を起爆剤として投資が広まり、「貯蓄から投資へ」の流れが加速局面に移行していると言える中、日本証券業協会では、その流れを確実なものとし、資本市場への成長資金の供給を通じて、我が国の経済発展に貢献するべく、「貯蓄から投資、その先へ」を新たにスローガンとして掲げたところである。

日本経済の現局面は「デフレ・コストカット型経済」から賃金・物価・金利の上昇と企業投資が増える「成長型経済」への移行期と言え、政府においても「強い経済」の実現に向け、日本成長戦略を策定し、2040 年度 250 兆円の国内投資目標の実現、また 2040 年までに、家計金融資産に占める株式・投資信託・債務証券の割合を 40%とする、という目標が掲げられた。

本協会は、我が国の成長や投資を支える資金調達の在り方、金融資本市場が果たすべき役割、そして証券業界の将来像について示すべく「2040 年に向けた我が国金融資本市場のビジョンについての懇談会」を設置し、幅広く議論を行っている。

本報告では、動き出した貯蓄から投資への動きを確認し、残された課題は何かを議論するとともに、2040 年をターゲットと金融資本市場に焦点を当てたビジョンについて、本懇談会における検討状況を報告する。

以 上